

長崎国際大学 職業実践力育成プログラム(BP):履修証明プログラム 自己点検・評価表

【職業実践力育成プログラム(BP):履修証明プログラム】

2023(令和5)年度～2025(令和7)年度 履修実績
 ○2023(令和5)年度:地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダー育成 履修生なし
 地域の福祉リーダー育成講座 2名履修【2名修了】
 ○2024(令和6)年度:地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダー育成 履修生なし
 地域の福祉リーダー育成講座 1名履修【1名修了】
 ○2025(令和7)年度:地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダー育成 2名履修
 地域の福祉リーダー育成講座 1名履修

【自己評価基準】

- 4:計画を上回って実施している。
- 3:計画を十分に実施している。
- 2:計画を十分に実施していない。
- 1:計画を実施していない。

【総合評価】

外部評価の総点/委員総数
 (小数点第2位を四捨五入)

2023(令和5)年度～2025(令和7)年度:地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成 履修生なし

| 評価項目 | 自己分析 | 分析結果に基づく評価 | 自己評価 |
|--|--|---|------|
| 1. プログラムの目的・概要 | | | |
| <p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 少子高齢化、「人生100年時代」ならびに人工知能の普及などの条件の下、インバウンド観光客を含む交流人口の増加が、各地の地域社会に求められている。当プログラムでは、観光まちづくりを通じて地域おこしに貢献するリーダーを育成する。 「国際関係特講」では、インバウンド観光客に、佐世保市ならびに周辺地域の観光地の特徴と魅力を効果的に発信する方法を調査する。対象とする観光客の国・地域の文化と、国際関係史を研究した結果を、上記の発信に反映させる。 次に「観光経済特講」では、経済学の視点から観光活動に関する諸主体の行動を理解するとともに、観光現象の研究手法を学ぶ。また、地域社会の特徴と魅力を来館者に伝える博物館は、重要な観光対象の一つである。「博物館特講」では、世界遺産、道の駅、重要伝統的建造物群保存地区、ジオパーク、水族館・動物園も視野に入れて、博物館のありかたを理解する。 地域社会の存続に向け、その魅力を観光客に効果的にアピールし、収益が上がるようにすることが求められる。この観点から、「観光</p> | <p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 同プログラムは本学人間社会学研究科観光学専攻科目である「国際関係特講」、「観光経済学特講」、「博物館学特講」、「観光マーケティング特講」の4科目において、総時間数120時間にて実施した。</p> | <p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 自己分析に基づき、カリキュラムを計画的に実施したことにより、「3:計画を十分に実施している」と判断。</p> | 3 |

| 評価項目 | 自己分析 | 分析結果に基づく評価 | 自己評価 |
|--|--|--|------|
| 2. 授業評価アンケート(履修修了生アンケート) | | | |
| <p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 履修修了生に対し以下の質問を行いたいが、履修生がいなく、アンケート調査未実施。 【問1】履修証明プログラムのカリキュラム、及び指導内容等は、満足しましたか。 【問2】身につけることのできる能力として、大学院の講座や講義等を受講することにより、体系的な知識・技術等の修得が出来たと思いますか。 【問3】履修証明プログラムを履修して、ご自身の能力がレベルアップしたと思いますか。</p> | <p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 履修生がいなくアンケート調査、未実施。</p> | <p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 履修修了生アンケート調査未実施の為、履修生の募集活動は実施したが、2023年度、2024年度は履修生がいなかったため、「1:計画を実施していない」と判断。</p> | 1 |

| 評価項目 | 自己分析 | 分析結果に基づく評価 | 自己評価 |
|--|---|--|------|
| 3. 履修生の募集 | | | |
| <p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 同プログラムは、2023(令和5)年～2025(令和7)年、定員5名にて募集。</p> | <p>本プログラム全体の広報・募集活動は、 ○本学ウェブサイトに加え、特に本年度は昨年の12月に ○長崎県及び佐賀県西部地域観光協会、並びに地域おこし協力隊:26ヶ所 ○長崎県内社会福祉協議会:27ヶ所へメールにて本プログラムの募集要項を送った結果、「地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成」は2名の履修に繋がった。 【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 結果的には、2023(令和5)年度、2024(令和6)年度は定員5名に対し、0名の履修、充足率は0%。2025(令和7)年度は2名受講有。充足率は40%。</p> | <p>【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 自己分析に基づき、履修生の募集活動は実施したが、2023(令和5)年度、2024(令和6年度)は定員充足率0%、2025(令和7年度)は2名履修があり、「2:計画を十分に実施していない」と判断。</p> | 2 |

| 評価項目 | 自己分析 | 分析結果に基づく評価 | 自己評価 |
|---|--|---|------|
| 4. 履修生の修了 | | | |
| 【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 2020(令和2)年～2022(令和4)年の同プログラムの修了生は、履修0名に対し、修了0名。 | 【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 履修0名に対し、0名の修了。 | 【地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成】 自己分析に基づき、修了率0%により、「1:計画を実施していない」と判断。 | 1 |
| 5. 意見聴取、情報交換、評価体制 | | | |
| 本項目の評価体制は、「令和7年度第2回全学教育会議」にて、本学の「履修証明プログラム・職業実践力育成プログラム(BP)」の外部評価、外部意見について、外部評価委員7名からいただいた。 上記の同会議における外部意見・外部評価と地域連携センター・地域連携室は自己分析・自己評価をふまえた自己点検評価を行った。 | ①「令和7年度：1回全学教育会議」外部意見聴取・評価(2023～2025年度) *自己評価含む ②2023年度、2024年度履修証明プログラム修了生に対するアンケート ③2025年度第7、8回地域連携センター会議 以上、①～③により、地域連携センターは、本プログラム全体としては、 ○履修生修了生の評価は高評価 ○募集・広報については、「地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成」は履修生0名の年度があり、低評価と自己分析した。 | 自己分析に基づき、「履修証明プログラム」について学内外者に対し、「社会人に対するリカレント教育に対する必要性」を訴えたこと、また同プログラムの履修修了生に対し「アンケート」を実施し、「履修証明プログラム」の満足度調査、改善点を含めた意見聴取の実施については、評価に値すると考える。 また学外者に対し、本学の「履修証明プログラム」に対する「外部評価・外部意見」を実施したことは評価に値する。 以上の分析結果により、本項目については、2023(令和5)年度～2025(令和7)年度は「2:計画を十分に実施していない。」と判断した。 | 2 |

2023(令和5)年度～2025(令和7)年度：地域の福祉リーダー育成講座【3名修了/アンケート回答3名】

| 評価項目 | 自己分析 | 分析結果に基づく評価 | 自己評価 |
|---|--|--|------|
| 1. プログラムの目的・概要 | | | |
| 【地域の福祉リーダー育成講座】 今日の社会福祉は、住み慣れた地域において安心・安全な暮らしを送ることを支える為として認識されている。 こうした地域での暮らしを支えていくためには、行政による施策実行はもとより、地域自身が当該地域に生じた課題に対する対応力を形成・蓄積していくことが求められる。 そのためには、そうした力を形成するための取り組みが可能な企画力・組織力・実践力を豊かに有する福祉リーダーの存在が鍵になるであろう。本プログラムにおいては、そうしたリーダーの育成を目的とした内容で構成している。 | 【地域の福祉リーダー育成講座】 同プログラムは、「人権思想・社会福祉史特講」、「地域医療、保健特講」、「福祉政策経営特講」、「事例研究(地域福祉計画)」の4科目において、総時間数120時間にて実施した。 | 【福祉リーダー育成講座】 自己分析に基づき、カリキュラムを計画的に実施したことにより、「3:計画を十分に実施している」と判断。 | 3 |

| 評価項目 | 自己分析 | 分析結果に基づく評価 | 自己評価 |
|---|---|---|------|
| 2. 授業評価アンケート(履修修了生アンケート) | | | |
| 【地域の福祉リーダー育成講座】 履修修了生に対し以下の質問を行なった。 【問1】履修証明プログラムのカリキュラム、及び指導内容等は、満足しましたか。 【問2】身につけることのできる能力として、大学院の講座や講義等を受講することにより、体系的な知識・技術等の修得が出来たと思いますか。 【問3】履修証明プログラムを履修して、ご自身の能力がレベルアップしたと思いますか。 | 【地域の福祉リーダー育成講座】 アンケート結果は、 【問1】:②思う3人 【問2】:②思う2人 ③どちらとも言えない1人 【問3】:②思う2人 ③どちらとも言えない1人 と履修修了生からの評価を得た。 | 【地域の福祉リーダー育成講座】 自己分析に基づき、履修修了生アンケートからは5段階中、 【問1】4評価 【問2】3.7評価 【問3】3.7評価 以上により、全体で平均3.8。 との評価を得たことにより、「3:計画を十分に実施している」と判断。 | 3 |

| 3. 履修生の募集 | | | 2 |
|---|---|--|---|
| 【地域の福祉リーダー育成講座】 2023(令和5)年度～2025(令和7)年度と同プログラムは、各年度定員5名にて募集。 | 【地域の福祉リーダー育成講座】 結果的には定員5名に対し、2023(令和5)年度:2名、2024(令和6)年度:1名、2025(令和7)年度:1名の履修として行った。2023(令和5)年度～2025(令和7)年度の履修生4名/定員15名、充足率は約27%。 | 【地域の福祉リーダー育成講座】 自己分析に基づき、2023(令和5)年度～2025(令和7)年度の3年間の定員充足率約27%により、「2:計画を十分に実施していない」と判断。 | |

| 評価項目 | 自己分析 | 分析結果に基づく評価 | 自己評価 |
|---|--|---|------|
| 4. 履修生の修了 | | | |
| 【地域の福祉リーダー育成講座】 2023(令和5)年度～2025(令和7)年度と同プログラムの修了生は、2023(令和5)年度履修1名に対し修了1名、2024(令和6)年度履修1名に対し、修了1名となった。 | 【地域の福祉リーダー育成講座】 2023(令和5)年度履修1名に対し修了1名、2024(令和6)年度履修1名に対し、修了1名となり、修了率は100%。 | 【地域の福祉リーダー育成講座】 自己分析に基づき、修了率100%により、「3:計画を十分に実施している」と判断できる。 | 3 |
| 5. 意見聴取、情報交換、評価体制 | | | |
| 本項目の評価体制は、「令和7年度第2回全学教育会議」にて、本学の「履修証明プログラム・職業実践力育成プログラム(BP)」の外部評価、外部意見について、外部評価委員7名からいただいた。 上記の同会議における外部意見・外部評価と地域連携センター・地域連携室は自己分析・自己評価をふまえた自己点検評価を行った。 | ①「令和7年度:1回全学教育会議」外部意見聴取・評価(2023～2025年度) *自己評価含む ②2023年度、2024年度履修証明プログラム修了生に対するアンケート ③2025年度第7、8回地域連携センター会議 以上、①～③により、地域連携センターは、本プログラム全体としては、 ○履修生修了生の評価は高評価 ○募集・広報については、「地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成」は履修生0名の年度があり、低評価と自己分析した。 | 自己分析に基づき、「履修証明プログラム」について学内外者に対し、「社会人に対するリカレント教育に対する必要性」を訴えたこと、また同プログラムの履修修了生に対し「アンケート」を実施し、「履修証明プログラム」の満足度調査、改善点を含めた意見聴取の実施については、評価に値すると考える。 また学外者に対し、本学の「履修証明プログラム」に対する「外部評価・外部意見」を実施したことは評価に値する。 以上の分析結果により、本項目については、2023(令和5)年度～2025(令和7)年度は「2:計画を十分に実施していない。」と判断した。 | 3 |

2023(令和5)年度～2025(令和7)年度:地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成 履修生なし

| | 自己評価 |
|--------------------------|------|
| 1. プログラムの目的・概要 | 3 |
| 2. 授業評価アンケート(履修修了生アンケート) | 1 |
| 3. 履修生の募集 | 2 |
| 4. 履修生の修了 | 1 |
| 5. 意見聴取、情報交換、評価体制 | 2 |
| 自己評価平均 | 1.8 |

2023(令和5)年度～2025(令和7)年度:地域の福祉リーダー育成講座【2名修了/アンケート回答2名】

| | 自己評価 |
|--------------------------|------|
| 1. プログラムの目的・概要 | 3 |
| 2. 授業評価アンケート(履修修了生アンケート) | 3 |
| 3. 履修生の募集 | 2 |
| 4. 履修生の修了 | 3 |
| 5. 意見聴取、情報交換、評価体制 | 3 |
| 自己評価平均 | 2.8 |

2023年度～2025年度 長崎国際大学履修証明プログラム・職業実践力育成プログラム（BP）における
自己評価、外部評価及び外部意見聴取について

【本学における「履修証明プログラム・職業実践力育成プログラム（BP）」自己評価、外部評価及び外部
意見聴取について、実施した会議について】

令和7年度 第2回全学教育会議

【開催日時、場所】令和7年9月24日（水）16:30～ 大学本部棟2階会議室

【外部評価委員】7名

【協議事項】2 リカレント教育「履修証明プログラム:職業実践力育成プログラム（BP）」について

| 令和6年度事業計画 | 自己 評価 | 外部 評価 |
|---|----------|----------|
| 国際観光学科【戦略Ⅲ】 □地域での産官学の取組みなどに積極的に参加し、地域貢献を図ると共に本学の 地域における存在感を一層向上させる活動を促進する。 □高度な観光経営人材の育成を目指し、リカレントを含めたカリキュラムを構築 するための海外を含めた大学間連携の促進、産学官の連携強化を図る。 | 3 | 4 |
| 健康管理学研究科【戦略Ⅱ】 長期履修制度の活用、入学前の既修得単位認定等の柔軟な対応により、リカレ ント教育の推進を図る。 | 4 | 4 |
| | | 4 |
| 人間社会学研究科観光学専攻（修士課程） リカレント教育としての履修証明プログラム、地域の観光業界に従事する社会 人入学、包括協定を締結した自治体との協働研究など、地域の大学としての教 育・研究活動を推進する。 | 3 | 4 |
| 人間社会学研究科社会福祉学専攻（修士課程） 県内の社会福祉職者のキャリア・アップを目的としたリカレント教育を推進 し、現職者のスキルの洗練に取り組む。 | 4 | 3 |
| | | 3 |
| | | 3 |
| | | 3 |
| | | 4 |
| | | 4 |

| | | |
|---|---|------|
| 大学全体 【(4)リカレント教育および社会人学生の支援】 <input type="checkbox"/> 大学院をリカレント教育の受け皿として捉え、産官学の連携を強化し、地域の実情に合ったカリキュラム編成に取り組む。 <input type="checkbox"/> 昨年度に導入した大学院生の長期履修制度を積極的に活用し、働きながらのリカレント教育を実現・充実させる。 <input type="checkbox"/> 社会人及び留学生の受け入れを促進するため、コロナ禍によって得た遠隔授業のノウハウを活用し、柔軟な形態による授業を実施する。 | 3 | 3 |
| | | 3 |
| | | 3 |
| 【(12)履修証明プログラム（職業実践力育成プログラム：BP）】 <input type="checkbox"/> 本学では、社会人等を対象に、職業上必要な専門的知識や技術取得、資格試験のための学習機会を提供し、再就職・キャリアアップ・資格試験の勉強などに活用できるように、また履修については平日の夜間、土日の時間帯等を活用し、履修証明プログラム（職業実践力育成プログラム：BP）として以下のプログラムを開設。 ※何れのプログラム定員5名 <input type="checkbox"/> 地域おこしに貢献する観光まちづくりリーダーの育成 <input type="checkbox"/> 地域の福祉リーダー育成講座 | 3 | 4 |
| | | 3 |
| | | 3 |
| | | 3 |
| 平均 | | 自己評価 |
| | | 外部評価 |
| | | 3.33 |
| | | 3.44 |

| 外部評価委員からの意見 |
|--|
| リカレント教育に対するニーズに伴う社会人教育充実に期待します。 |
| 各々具体の取り組み実績からして、もっと評価できるのではないかと思います。 |
| 地域交流やリカレント教育において着実な実績が積み上がっていることは高く評価できます。 |
| BPを通じて人材育成ができています。 |
| オンライン方式授業のメリットを最大限活用されて、今後も社会人教育が発展されますことを期待いたします。 |
| 社会人受入れについて、どの程度広報を行っているのか。履修証明プログラムの参加者がもっと多くてもよいのではないかと |
| アンケート結果から客観的に評価できる。 |
| 履修証明プログラム（職業実践力育成プログラム：BP）による効果的な社会人教育を今後も期待しております。 |
| 社会人向けのプログラムは大変でしょうが継続を。 |
| ニーズの把握もぜひ充足率が低いことから、課題の抽出と改善に期待したい。 |

* 外部評価委員、延べ人数：18人の評価（4段階）及び外部意見

| | 4 | 3 | 2 | 1 |
|-------|-----------|---------------------------|--------------|----------|
| 評価・評点 | 取組が充実している | 計画通りではないが 必要な取組がなされている | 計画への取組に不足がある | 取組に工夫が要る |